

北山城跡 第2次 (No.17)

4区の溝から鎌倉時代の陶器が出土！

No.15でお知らせした4区南側で検出された溝群の掘削が進んでいます。

溝群は中心となる幅約2mの大きい溝と、その溝から分岐する幅約50cmの細かい溝数本で構成されています。

これらの溝を掘削したところ、細かい溝から遺物は出土しませんでした。大きい溝から、通称「山茶碗（やまぢゃわん）」と呼ばれる鎌倉時代の陶器が数点出土しました。

大きい溝は、上の方は粘土質の土で埋まっていますが、底の方は粗い砂の層となっていました（山茶碗は全てこの砂の層から出土しました）。砂が堆積していたことから、この溝は、当初はある程度の速さで水が流れていたことが分かります。おそらく、溝の続く調査区外の南には、鎌倉時代も現在のように水田が作られており、そこに水を供給するためのものであったと思われます。



4区の溝群



出土した山茶碗



山茶碗の底

出土した山茶碗は、大きさや形状などの特徴から鎌倉時代後期～末頃のものであることが分かりました。山茶碗には、底に文字か記号のようなものが書かれていることがよくあるのですが、出土した山茶碗の中にもそのようなものがありました。写真のものは文字であれば「廿（にじゅう）」と読むことができそうです。これだけでは何を意味するのか断定はできませんが、調査を進めていくとおもしろい発見があるかも知れません。

今後の調査の進展にご期待下さい。

【問い合わせ先】

三重県埋蔵文化財センター 調査研究3課 四日市整理所

〒512-8064 三重県四日市市伊坂町126-1

電話番号：059-363-3195/ファックス：059-363-3196

E-mail: maibun@pref.mie.jp

担当：勝山孝文・矢田陽・宮原佑治